

研修基礎講座 A

「本人によく聴く」から始まるダイアログ ～共により良い関係や職場をつくるための対話技術～

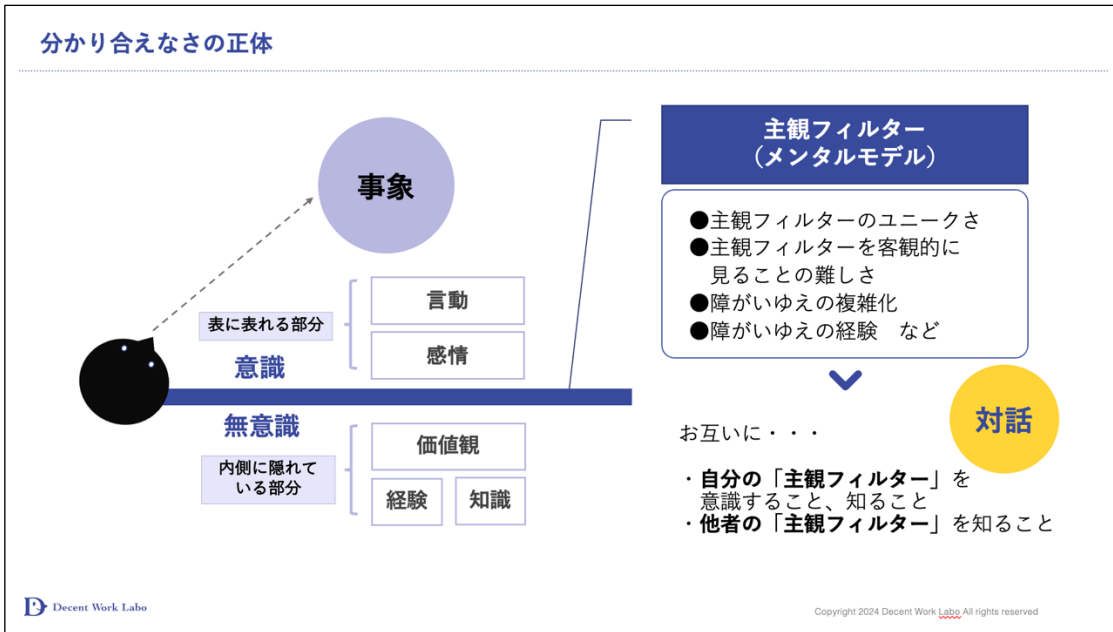
NPO 法人ディーセントワーク・ラボ 中尾文香

職業リハビリテーションにおける「本人中心」を具現化するための方法は、「その人を知る」ことからスタートすると考えます。知るためには、いろいろな方法がありますが、まずは「本人によく聴く」ことが重要ではないでしょうか。

例えば、障害者就労・雇用における合理的配慮について、厚生労働省の「合理的配慮指針」では合理的配慮は事業主と障害者の相互理解の中で提供されるべきという記載があります。これまで実施した調査からも、障害者雇用における相互理解を促進するためには「ダイアログ（対話）」が有効であることが明らかとなりました。

では、そのダイアログは、具体的にどのように行うと良いのでしょうか。仕事をしていると、時に障害者と雇用側それぞれの「そうしたい」「そうしてほしい」といった思いや行動が異なり、お互いにとって自分の思い通りにならないときがあります。その際は、両者が折り合いをつける必要が出てきます。その折り合いをつけるための手法の 1 つがダイアログであり、必要な合理的配慮やより良い職場を協働創造していくというプロセスでもあると考えます。

本講座では、「ダイアログとは何か」「ダイアログを深めるためのポイント」「障害者就労・雇用をより良く進めるためのダイアログのプロセス」「自己とのダイアログ（対話）」などについて学びます。座学やグループワークを通して、自己・他者とのダイアログ（対話）の考え方やその姿勢、技術の基礎を学ぶための講座で、ダイアログが初めての方や普段行っているコミュニケーション（対話）を見直したい方向けの基礎研修です。



図：ダイアログ（対話）を行う時に着目すべき観点

【このような方におすすめの研修です】

- ・ 就労支援におけるダイアログについて知りたい
- ・ 合理的配慮をめぐるダイアログについて知りたい
- ・ ダイアログを始めてみたい
- ・ ダイアログの技術を知りたい
- ・ ロールプレイをしながらダイアログを学びたい